

一般社団法人 日本呼吸療法医学会
2024 年定時社員総会 議事録

日 時：2024 年 6 月 27 日(木)15:30～17:30

会 場：緑の迎賓館 アンジェリーナ アニエル館（山形県天童市鯉ノ町 2-1-50）

【開 会】 挨拶：藤野 裕士 理事長 / 中根 正樹 会長

- ・代議員 109 名中、出席者 84 名（現地 45 名）と委任状提出者 39 名の合計が本総会の成立に必要な過半数であることが報告され、開会が宣言された。
- ・藤野理事長、中根会長より挨拶があった。

I. 役員選出（信任）

所信表明

- ・藤野理事長が選挙管理委員を大下慎一郎先生と方山真朱先生に委嘱した。
- ・理事立候補者7名（内田寛治先生、大塚将秀先生、小倉崇以先生、倉橋清泰先生、清水敬樹先生、志馬伸朗先生、竹内宗之先生）と監事立候補者2名（竹田晋浩先生、藤野裕士先生：50音順）が報告された。
- ・理事・監事立候補者の所信表明を行った。立候補者数がいずれも定数内であったため挙手で信任を問い、賛成多数で承認された。
- ・総会審議を一時中断して臨時理事会を開催する旨が理事長より宣言され、新理事・新監事らによる臨時理事会が開催された。

【臨時理事会】

- ・定款ならびに定款施行細則にもとづき、新理事長の選出を行った。新理事7名を候補者とし、新理事が投票を行った結果、竹内宗之理事が選出された。
- ・続いて職種指定理事の選出を行い、石井宣大様（臨床工学技士）、佐藤暢一先生（医師）、玉木 彰様（理学療法士）、松本幸枝様（看護師）の4名の推薦が決定した。

【定時社員総会再開】

- ・新理事長が発表され、職責指定理事（中根正樹前会長、吉田健史会長、平井豊博副会長）、職種指定理事、監事を含めた新役員体制が承認された。新理事長から就任挨拶があった。

II. 新代議員紹介

- ・新代議員 38 名の紹介を行った。

- 1 青木 一憲 医師 兵庫県立こども病院
- 2 荒田 晋二 臨床工学技士 JA 広島総合病院
- 3 五十嵐義浩 臨床工学技士 聖マリアンナ医科大学病院
- 4 石橋 一馬 臨床工学技士 神戸市立医療センター中央市民病院
- 5 板垣 大雅 医師 徳島大学病院

6	伊東 幸恵	医師	大阪母子医療センター
7	大内 玲	看護師	茨城キリスト教大学看護学部
8	大藤 純	医師	徳島大学病院
9	大山 慶介	医師	かわぐち心臓呼吸器病院
10	岡野 弘	医師	聖路加国際病院
11	緒方 嘉隆	医師	八尾徳洲会総合病院
12	片山 雪子	看護師	榊原記念病院
13	栗山 直英	医師	藤田医科大学医学部
14	小泉 沢	医師	宮城県立こども病院
15	小山有紀子	医師	大阪大学大学院医学系研究科
16	櫻谷 正明	医師	JA 広島総合病院
17	佐藤 裕一	医師	東京都立多摩総合医療センター
18	佐藤 隆平	看護師	神戸市看護大学
19	菅原 陽	医師	横浜市立大学附属市民総合医療センター
20	竹下 淳	医師	大阪母子医療センター
21	巽 博臣	医師	札幌医科大学医学部
22	田中 愛子	医師	福井大学医学部附属病院
23	俵 祐一	理学療法士	聖隷クリストファー大学
24	藤内 研	医師	自治医科大学附属病院
25	永田 一真	医師	神戸市立医療センター中央市民病院
26	野々山忠芳	理学療法士	福井大学医学部附属病院
27	萩原 祥弘	医師	済生会宇都宮病院
28	橋場 英二	医師	弘前大学医学部附属病院
29	濱本 実也	看護師	公立陶生病院
30	原山 信也	医師	JCHO 九州病院
31	比留間孝広	医師	福島県立医科大学 救急・生体侵襲制御学講座
32	藤江 建朗	臨床工学技士	森ノ宮医療大学医療技術学部
33	藤澤美智子	医師	横浜市立みなと赤十字病院
34	藤本 正弘	臨床工学技士	鶴川サナトリウム病院
35	文屋 尚史	医師	札幌医科大学医学部
36	松本正太郎	医師	国立成育医療研究センター
37	柳田 頼英	理学療法士	長崎大学
38	山田 亨	看護師	東邦大学医療センター大森病院

Ⅲ. 報告事項

1. 総会および理事会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前年度の定時社員総会議事録と理事会議事録が報告され、承認された。

2. 理事長報告（藤野理事長）

1) 呼吸ケア指導士の研修単位の件

- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会による“呼吸ケア指導士”の研修単位として本会年次学術集会への出席 10 点・筆頭演題発表 10 点が継続的に認定された。

2) 日本集中治療医学会サマーキャンプ協力

- ・2023 年 8 月にニセコにて、セミナー委員会によるハンズオンセミナーを実施した。
- ・2024 年 7 月に、同内容で蓼科での開催に協力する予定である。

3) 会員管理システム導入

- ・かねてより、日本集中治療医学会が有している基盤システムを本会の会員管理にも活用させていただく案を検討してきた。先方では 2 年ほどの開発期間を経て 2023 年から稼働し、学術集会の参加登録などもそこから行えるようになっている。
- ・日本救急医学会や他学会でも導入する案があり、関連学会が同じシステムを使用することで複数に入会する会員には大きなメリットとなる。
- ・日本集中治療医学会と契約を結び、使用料を支払う形で導入が行われる見込みであり、説明会を手配している。実際の決定は次期理事会に委ねることとした。

4) 広報委員会の新設

- ・次期から広報委員会を設置し、以下の 2 名を委員として発足することが報告された。

高木 俊介 Dr（横浜市立大学医学部麻酔科学教室）

野口あすか Ns（福岡県済生会福岡総合病院救命センター）

3. 事務局からの報告（佐藤理事）

- ・2024 年 6 月時点の会員数が以下のとおり報告された。

一般会員：1,831 名（Dr 1,125、Ns 258、CE 317、PT 109、他 22）

賛助会員：14 社／年間購読契約：8 件

- ・会員動向は、年度が変わり資格喪失退会が生じ、前年度同時期に比べ医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士いずれも微減傾向に転じた。
- ・一般会員の会費納入状況は、2022 年度が 92.9%、2023 年度が 88.8%であった。
- ・賛助会員が 1 社退会となった。継続への働きかけが必要である。

4. 学術集会準備状況

1) 第 46 回学術集会（中根会長） 運営事務局：クレッシー社

2024 年 6 月 28 日（金）・29 日（土）天童ホテルほか（山形）「標す」

- ・参加登録が現時点で 880 名であることが報告された。1,000 名は超える見込みである。

2) 第 47 回学術集会（吉田副会長） 運営事務局：クレッシー社

2025 年 8 月 30 日（土）・31 日（日）グランキューブ大阪（大阪）

- ・テーマを「挑戦、そしてその先へ —beyond the CHALLENGE—」としたことが報告された。

3) 第 48 回学術集会（平井副会長） 運営事務局：コンベンションプラス社

2026 年 7 月 4 日(土)・5 日(日)国立京都国際会館（京都）

5. 定款施行細則・規則 変更報告（佐藤理事）

- | | | |
|---------------|--------------|----------------|
| 1) 理事会・委員会規則 | 第 11 条 (1) | 委員、委員長の任期を訂正 |
| 2) 編集委員会 | 規則 第 1 条 | 機関誌名を変更 |
| 3) セミナー委員会 | 規則 第 2 条 | 委員 10 名で構成、と変更 |
| 4) チーム医療推進委員会 | 規則 第 2 条 (1) | 委員 10 名以内、と変更 |

6. 次期社員・委員会人事（佐藤理事）

- 1) 2024～2026 年 社員（代議員）名簿
 - ・職種指定理事（看護師）に松本 幸枝代議員が就任した。
- 2) 委員会名簿
 - ・2 委員会の委員長交代（安全対策・危機管理、倫理）と、各委員会の委員交代が報告された。

IV. 委員会報告

1. 将来計画・財務委員会（委員長 藤野裕士）

- 1) 活動実績
 - ・若手登用を推進し、2024 年度代議員に新規 38 名が就任。
 - ・広報委員会の設置に向けて多職種から委員を推薦中。
- 2) 今後の活動
 - ・会員管理システムの導入（日本集中治療医学会より導入予定）。
 - ・他学会との連携、学術集会相互支援、認定制度の単位付与などを継続。

2. 編集委員会（委員長 藤本潤一／担当理事 竹内宗之）

- 1) 機関誌
 - ・第 40 巻第 2 号（2023 年 11 月 30 日）、第 41 巻第 1 号（2024 年 5 月 30 日）の発行と、第 41 巻第 2 号（2024 年 11 月 30 日）の企画案が報告された。
- 2) 投稿論文
 - ・2023 年度は投稿数が 20 編で前年度の 16 編を上回った。
- 3) ユーザーレポート
 - ・第 39 巻（2022 年度）が 4 社、第 40 巻（2023 年度）が 4 社の掲載となった。
- 4) 2024 年度論文賞
 - ・優秀論文賞 1 編、奨励論文賞 2 編を選出し理事会で承認された。第 46 回学術集会で表彰を行う予定である。
- 5) 誌名変更
 - ・第 41 巻第 1 号（2024 年 5 月）から誌名を『呼吸療法』へと変更し、それにあわせて表紙・本文デザインを一新した。
- 6) 用語集

- ・現在の第2版の改訂を計画中である。

3. 代議員審査委員会（委員長 青景聡之／担当理事 平井豊博）

1) 新規 代議員審査結果：2024年3月1日～4月30日

- ・38名の新規申請を認定し、理事会で承認された。

2) 更新 代議員 109名 更新審査結果：2024年3月1日～3月31日

- ・年齢条項による6名と辞退の3名を除く100名の再任希望者の活動状況を審査し、すべて認定した。理事会で承認された。

4. 小児在宅人工呼吸検討委員会（委員長 寺澤大祐／担当理事 竹内宗之）

- ・在宅人工呼吸器の普及が急速に拡大し、小児在宅の分野は重要な領域になりつつある。第3版の制作に向け、現委員がコアとなり制作陣を組織する計画である。
- ・第46回学術集会で委員会企画を開催する。

5. セミナー委員会（委員長 方山真朱／担当理事 大塚将秀・玉木 彰）

1) 活動報告（2023年度）

- ・3つのオンラインセミナーを実施し、以下の収支を計上した。（税別）

	受講料収入	講演料	委託料など	事務局費	収 支
第52回セミナー(921名)	6,447,000	546,730	1,858,054	150,000	+3,892,216
第2回 Refresher(88名)	968,000	364,487	717,072	100,000	-213,559
第13回 Basic(338名)	3,718,000	425,231	985,859 (宣伝)128,459	100,000	+2,078,451

2) 活動計画（2024年度）

- ・第53回医学会セミナー（メディカルスタッフ向け9講義）

プランナー：小野寺悠 委員

受講期間：7/1～7/31 受講料：7,700円（税込、テキスト代含む）

点 数：3学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数（25点）付与

- ・医師向けセミナー第3回 Refresher コース（医師中級者向け6講義）

プランナー 板垣大雅 委員

受講期間：11/1～11/30 受講料：12,100円（税込、テキスト代含む）

教 材：『呼吸療法専門医テキスト』（専門医制度との連動）

- ・医師向けセミナー第14回 Basic コース（医師初級者向け7講義）

受講期間：3/1～3/31 受講料：12,100円（税込、テキスト代含む）

4) サマーキャンプ in 蓼科 ハンズオンセミナー「人工呼吸器」

- ・主 催：日本集中治療医学会
- ・講 義：4ブースでハンズオン、セミナー委員 OB 含めて総勢10名
- ・日 程：2024年7月18日(木)～19日(金)

6. チーム医療推進委員会（委員長 佐藤暢夫／担当理事 大塚将秀・茂呂悦子）

1) 委員会開催

- ・2023年度は第2木曜日18時からの定例 Web 会議を7回開催した。

2) Joyful Board（会員限定意見交換掲示板）

- ・会員専用ページで会員同士が意見交換できる掲示板「Joyful Board」を 2023 年 12 月に設置した。2024 年 5 月末時点で、前年 8 月の試用期間も含め 20 件以上の投稿があり 110 件以上の回答があった。アクセスカウンターは「850」を数えている。
- ・今後、投稿を内容別に 16 の項目に分類する計画

3) 学術集会企画

- ・第 46 回学術集会で 3 つの委員会企画を実施。演者への質問や意見交換の場として Joyful Board の活用を提案。

6-2. RST プロジェクト （委員長 長谷川隆一／担当理事 佐藤暢一）

1) 認定状況

- ・RST 認定登録施設数：45 施設（前年の総会報告時は 43 施設）

2) RST プロジェクトの今後

- ・認定施設による UMIN のデータベースは欠損値が多く質の改善の見込みも薄いためあと数年運用してデータをまとめた後、終了する。
- ・データベース運用終了までの間は、実務を担う西村、長谷川（呼吸療法）、南雲（ケアリハ）の 3 名で規模を縮小して運用する。

7. 安全対策・危機管理委員会 （委員長 中根正樹／担当理事 内田寛治・石井宣大）

1) 人工呼吸器の作動停止事例情報収集（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

- ・情報提供数：5 件（実害なし 3 件、一時的低酸素血症 2 件、後遺症あり・死亡 0 件）
（アラーム発令 4 件、停止に気づいたもの 1 件）
- ・作動停止事例の入力フォームについて、日本臨床工学技士会・医薬品医療機器総合機構などと協議のうえ共通化する案を検討中である。
- ・医療安全全国共同行動 2024 年度定時社員総会で報告をしている。いつまで停止事例の収集・報告を行うかについて次期委員会で検討する。

2) 『人工呼吸器安全使用のための指針（第 2 版 2011 年）』改訂

- ・日本臨床工学技士会（窓口：木村政義様）と日本クリティカルケア看護学会（窓口：濱本実也様）との 3 学会で協業する合意を得た。次期委員長のもと改訂を進める。

8. 専門医委員会 （委員長 江木盛時／担当理事 佐藤暢一・藤野裕士）

1) 呼吸療法専門医 2023 年度筆記試験

- ・2023 年 12 月 2 日(土)11:30～13:10 に新大阪で 32 名が受験し 31 名が合格した。

2) 2023 年度審査結果

- ・研修施設が 129 施設、呼吸療法専門医が 325 名となった。

9. ECMO プロジェクト委員会 （委員長 清水敬樹／担当理事 竹田晋浩）

1) ECMO 適応等の診療相談・出張往診等

- ・電話・インターネットによる相談窓口を常設（24 時間対応、土日祝日含む）
⇒相談数は極めて少ないものの継続の要望は強い。今後の継続を再検討。
- ・依頼があった施設へ医師を派遣し、ECMO 適応・呼吸管理法についてのコンサルテーションを実施。依頼元施設で治療継続困難な場合、適切な転院施設を探し、転院方法・車両等を含めて手配。

- 2) 他学会との連携
 - ・日本救急医学会の ECMO プロジェクト、日本集中治療医学会の ECMO プロジェクトとの合同委員会企画等を各種学術集会で適宜開催。
 - ・日本心肺補助学会の設立に伴い、ECMO プロジェクトの果たすべき役割を再確認。
 - ・ELSO や Euro ELSO、Asia-Pacific ELSO などの支部とも連携。
⇒2026 年の学術集会で Asia-Pacific ELSO の共催を目指す。
- 3) ECMO 従事者養成研修
 - ・初級編・上級編、ECMO 搬送訓練など、難易度・目的を変えて、受講者のニーズに合った内容の講習会を継続して開催していく。
 - ・日本 ECMO net と協働して、小児領域の ECMO 従事者養成研修の実現も目指す（2024 年 9 月に岡山で第 1 回を開催予定）。
- 4) 呼吸 ECMO のレジストリー
 - ・COVID に関する CRISIS によるレジストリーは 2022 年 3 月 31 日で終了となり、今後、従来 ECMO プロジェクトで行っていたレジストリーを、モダリティと内容を変更して再開する方針である。
10. 利益相反委員会（委員長 島田二郎／担当理事 竹田晋浩）
 - ・気管吸引ガイドライン改訂における各 FQ・BQ の推奨案を評価する 16 名の COI 状況を確認した。
 - ・オンラインでの COI 申告システムを導入した。
 - ・継続して日本医学会 COI 管理ガイドラインを注視していく。
11. 社会保険委員会（委員長 志馬伸朗／担当理事 平井豊博）
 - 1) 内保連の加盟状況
 - ・加盟認定；2018 年度より加盟
 - ・代表委員；近藤康博理事、志馬伸朗理事、平井豊博理事の 3 名を登録
 - ・診療領域別委員会（以下 4 委員会）
01. 検査関連 03. リハビリテーション関連 10. 呼吸器関連 20. 在宅医療関連
 - 2) 令和 6 年度診療報酬改定提案：医療技術評価分科会判定結果
 - ・未収載「酸素ボンベ安全性加算」 評価すべき医学的な有用性が十分でない
 - ・既収載「基礎代謝測定（間接熱量測定）」別途評価を行うべき根拠が十分でない
12. 倫理委員会（委員長 大塚将秀／担当理事 志馬伸朗）
 - ・活動計画、次期委員長人事、学術集会企画、次期委員会人事などを審議した。
 - ・第 46 回学術集会で委員会企画を開催する。
13. 学術集会あり方検討委員会（委員長 中根正樹）
 - ・第 44 回学術集会から採用している学術集会抄録アプリを継続使用する。
14. 学術研究推進委員会（委員長 吉田健史／担当理事 志馬伸朗）
 - ・「集中治療と医療の質指標と VAE（略称）」
統計解析を TXP メディカルに委託し解析。複数の論文が輩出されることを目標。
 - ・トロント大学「A survey of when to intubate in hypoxemic respiratory failure」

アンケートを、会員を対象にオンラインで実施（2023 年 10 月）。

侵襲的人工呼吸管理開始の決定に関わる医療従事者を対象。

挿管・人工呼吸管理開始の決定にかかわる種々の因子を定量評価する目的。

- ・「ARDS 患者に対する ECMO 管理中の至適 PEEP の検討」

大下慎一郎先生（広島大学大学院救急集中治療医学）のもと RCT として進行中。

- ・「小児心臓血管外科術後患者における高流量式鼻カスラの効果」

吉田健史委員長（大阪大学大学院麻酔集中治療医学）のもと進行中。

- ・「COVID-19 患者における急性呼吸不全に対する非侵襲的呼吸管理デバイス（HFNCOT、CPAP、NPPV）の有効性と安全性の検討」

近藤康博先生（公立陶生病院）のもと進行中。

- ・「気管支喘息、COPD 増悪時の吸入療法の実態調査」

奥田みゆき先生（大阪南医療センター呼吸器・アレルギー内科）のもと進行中。

日本集中治療医学会・日本呼吸器学会・本会の会員を対象にアンケートを実施。

（2023 年 10 月～11 月 20 日）。全国的にデータを収集し吸入療法の実態を把握。

英文での結果報告を作成中。転載許可が得られれば本会機関誌でも発表予定。

15. 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（担当理事 中根正樹）

- ・今期で活動をいったん終了することとした。

16. 気管吸引ガイドライン改訂ワーキンググループ（委員長 中根正樹）

『気管吸引ガイドライン 2023〔改訂第 3 版〕（成人で人工気道を有する患者のための）』

- ・2023 年 12 月に学会ホームページにて学会誌第 41 巻第 1 号（2024 年 5 月発行）の先行公開記事として掲載した。

- ・日本医療機能評価機構 Minds より「Minds ガイドラインライブラリ」上での本ガイドライン掲載依頼があり承諾した。

17. ARDS 診療ガイドライン 2026 作成委員会（担当理事 竹内宗之）

- 1) 組織：日本集中治療医学会・日本呼吸器学会・日本呼吸療法医学会の 3 学会合同

委員長 大下慎一郎・則末泰博

副委員長 岡森 慧・安田英人・竹内宗之

委員_班長 中島幹男・阿南圭祐・片岡 惇・成田知大・三浦慎也

サポート班 真弓卓也（リーダー）岸原悠貴・岡田遥平・山本良平・林健一郎（サブ）

オブザーバー 橋本 悟

担当理事 田坂定智（オブザーバー）・竹内宗之

- 2) パネル会議：・2024 年 5 月 12 日(日)にパネル会議を開催し CQ が決定した。

V. 審議事項

第 1 号議案 2023 年度事業報告および決算承認の件（佐藤理事、川前・西田監事）

<収 入>

- ・年会費：会員数の減少（1,914→1,880 人）と納入率の低下などにより（－4%）、前年度より 148.7 万円の減となった。年度内の納入率は約 82.5%、未収金は

263.4 万円。

- ・事業費：年 3 回のオンラインセミナー収入は前年度より 78.9 万円の減となった。
- ・広告費：ユーザーレポート掲載社は年間で計 3.5 社となった。
- ・機関誌販売：別刷販売 1 社により前年度より 29.8 万円の増となった。
- ・当期収入は 103,868,737 円、学術集会関連を除くと 32,185,890 円となった。

<支 出>

- ・機関誌等発行費：機関誌の頁数は前年度と同等であった。前年度は過去の機関誌 PDF をホームページに掲載した経費があり、28.6 万円の減となった。
- ・事業費：セミナーの経費は前年度より 36.8 万円の減となった。
- ・委員会費：ARDS 診療 GL2021 の和文詳細版 PDF 作成で 230 万円、一般向け資料作成で 15 万円などを計上し、かつ ARDS 診療 GL2016 の在庫差額・断裁処分の原価相当額計上により、前年度より 285 万円の増となった。
- ・当期支出合計は 92,866,304 円、学術集会関連を除くと 23,158,378 円となった。
- ・次年度繰越利益は 130,987,577 円となった。

<収支合計>

- ・学術集会を除く単年度収支は 11,002,433 円の黒字となった。

<監査報告>

- ・川前監事・西田監事から、会計監査を行い、適切に運用されていることを確認した旨の報告があった。
- ・以上、2023 年度決算について、出席した社員の過半数の賛成を得て承認された。

第 2 号議案 2024 年度事業計画および収支予算の件（佐藤理事）

<収 入>

- ・会費収入：2024 年 5 月時点の会員数にもとづき計上した。
- ・事業収入：医学会セミナーを年 1 回（800 名）、医師向けセミナーを年 2 回（450 名）として、参加費収入を計上した。
- ・広告収入：1 号のユーザーレポート掲載料は実費を、2 号は見込額を計上した。
- ・書 籍 等：『ECMO・PCPS バイブル』『小児在宅第 2 版』の印税見込額を計上した。
- ・学術集会：会長試算による見込み額を計上した。
- ・以上、当期収入予算は 94,813,000 円、学術集会関連を除くと 31,207,000 円となった。

<支 出>

- ・機 関 誌：1 号の発行諸経費にもとづき計上した。気管吸引ガイドライン 2023 の掲載により頁数が増えた分費用も増加した。
- ・事 業 費：医学会セミナーを年 1 回、医師向けセミナーを年 2 回として、前年実績にもとづき計上した。
- ・委員会費：各委員会の前年実績などにもとづき計上した。編集委員会は機関誌変更にもとまう表紙・本文デザイン費を、ARDS 診療ガイドライン 2026 は制作費用を計上した。

- ・ 学術集会：会長試算による見込み額を計上した。
- ・ 専門医等：『呼吸療法専門医テキスト 2024』の編集費と試験会場費を計上した。
- ・ そ の 他：理事会費・交際費・社員総会費・事務局費・通信費・租税公課・支払手数料・事務用消耗品費・法人税等を前年度にもとづき計上した。
- ・ 以上、当期支出予算は 83,372,000 円、学術集会を除くと 22,310,000 円となった。

＜収支合計＞

- ・ 単年度の収支は約 889 万円の黒字予算となることが報告された。
- ・ 以上、2024 年度予算について出席した社員の過半数の賛成を得て承認された。

第 3 号議案 第 49 回（2027 年）学術集会会長候補の件（藤野理事長）

- ・ 竹内宗之理事の第 49 回会長就任が、出席した社員の過半数の賛成を得て承認された。

第 4 号議案 定款変更の件（佐藤理事）

- ・ 定款の文言についてはこのままとし、選挙年の総会の進行について、臨時理事会の時機などや新理事会の報告方法などを再確認することとした。

VI. 名誉会員推戴式

- ・ 今期をもって任期満了となった代議員から、川前金幸先生、布宮 伸先生、今中秀光先生の 3 名が名誉会員に推戴されたことが報告され、藤野理事長から推戴状が授与された。

【閉 会】

- ・ 藤野理事長より閉会宣言があった。